

ちいき人権 World

発行
2023年度 冬号 (No.113)

発行：世界人権宣言八尾市実行委員会
委員長 土田 紀康
連絡先 TEL 072-924-9853
FAX 072-924-0134
編集：「ちいき・人権・World」編集委員会



ひゅーまんフェスタ 2023



やおプレイデイ 2023



人権週間



せじ〜ん 75

11月、12月は人権のイベントが多く、人権啓発のためのマスコットキャラクター「ひゅーペン」が大活躍しました！

ひゅーペンはじんけんの種まきをします。八尾市がじんけんの花でいっぱいになりますように。

も く じ

- | | |
|--|--------------------------------------|
| 2 P..... 八尾市非核・平和都市宣言から 40 年
～宣言都市が果たす役割～ | 10 P..... 白根さんと考えよう！世界の人権 47 |
| 5 P..... ひゅーまんフェスタ 2023 報告 | 11 P..... セジ〜ん 75 報告 |
| 6 P..... プレイデイやお 2023 | 12 P..... 新共有する時間は…part57 |
| 7 P... 第 46 回みんなのしあわせを築く八尾市民集会 | 13 P..... うーさんのおすすめ本
/ じゃりちえ日記 76 |
| 8 P..... SDG s イベント&ワークショップ
/ フューチャリングアイディアソン | 14 P..... 気ままにおしゃべりシネマ 55 |
| 9 P..... やおキラ交流会
/ 人権週間街頭啓発 | 15 P..... 勝手にきやらふる 77 |
| | 16 P..... 歌詞紹介 / まちがいさがし |

八尾市非核・平和都市宣言から40年 ～宣言都市が果たす役割～

2023年、八尾市は非核・平和都市宣言（以下、宣言）から40年を迎えました。一方、国連では、2021年1月22日に核兵器禁止条約が発効されましたが、被爆国である日本は未だ批准していません。世界を見渡しても、非核どころか核軍縮さえも、ウクライナへの軍事侵攻によりその脅威が意識される状況となっています。

日本全国の自治体数1,788のうち八尾市を含め宣言自治体数は1,667と宣言率は93.2%にも及びます。（日本非核宣言自治体協議会ホームページより）

多くの自治体が宣言する中、40年をむかえた八尾市として、非核・平和啓発を進めるにあたりどのような取り組みが進められてきたかを担当課である、人権ふれあい部人権政策課の富田さんに伺いました。

八尾市非核・平和都市宣言10周年に設置されたモニュメント「光の道しるべ」



Q. 非核・平和都市宣言から40年になりますが、宣言に至る経緯について教えてください

八尾市は1983年10月に非核・平和都市宣言をし、昨年40周年を迎えました。宣言をした1983年時、日本では多くの自治体为非核平和都市宣言をしています。これは、当時、アメリカとソ連の全面核戦争の危機が高まる中、核兵器の脅威をなくすため、自らのまちを非核兵器地帯であるとイギリスのマンチェスター市が宣言し、他の自治体にも同じような宣言をするように求めた運動から広がったものです。その呼びかけに応じて日本でも広がってきました。日本

では、1982年に広島県府中町で、東京の日野市や神奈川県藤沢市など9市町村が集まって「非核宣言の輪を広げよう」というシンポジウムが開かれる等、機運が高まっていて、大阪では他の地域よりも比較的早く1983年に八尾市を含め、吹田市、豊中市、羽曳野市、堺市、寝屋川市、高槻市、大東市など宣言する自治体が出てきました。

八尾市に残る議会資料をみると「近年の核軍拡競争により人類を滅亡させかねない危機にかんがみ、本市において非核平和都市宣言をすることが適当と考える」と議会で承認され、宣言しています。

宣言の内容は各自治体でそれぞれ違いますが、基本的には、日本国内では非核三原則、日本国憲法で謳われている、恒久平和を守るといったことが盛り込まれた内容になっており、海外の非核平和都市宣言とは少し内容が異なるものが多いかと思います。

でも日本は、国連の核兵器禁止条約にまだ批准していません。広島、長崎という大きな被害を受けた世界で唯一の国なので批准にむけて





八尾市非核平和都市宣言30周年で
つくられた記念誌

努力されるべきだと思います。八尾市では加盟する日本非核宣言自治体協議会（以下、協議会）を通じて日本政府に働きかけをしています。

Q. 八尾市で宣言されそこからどのような取り組みが行われてきましたか

まず、宣言から3年後の1986年に、協議会に加入し、現在も役員市として活動していますので、加入以降は、他の自治体と連携しながら平和啓発事業の推進をしているということがいえるかと思います。

その他、これまでの取り組みでいくと、まず宣言の看板を設置し、宣言市であることを市民に知っていただきました。それから10周年にあたる1994年には市役所前にモニュメントを設置しました。あと、平和の講演会やパネル展、以前は被爆地である広島あるいは長崎へ子どもたちを派遣するというような事業もしてきました。

20周年目となる2003年からは、長崎市から被爆体験者を招いて市内の小中学校で被爆体験講話をスタートさせました。それから数えて、もう20年になります。この間、コロナ禍での一度の中止をのぞき、毎年実施してきました。20年間で被爆体験講話を実施した小中学校は延べ275校、講話を聞いたこどもの延べ総数は、約5万6千人となりました。被爆体験講話をはじめまでは、被爆地へ子どもたちに訪問してもらい、感じたことを子どもたちに伝えてもらう事業を実施していました。もちろん、それも大

切なことなのですが、より多くの子どもたちに実際の核兵器の怖さを知ってほしいということで、長崎から被爆体験講話者を招いて各学校をまわっていただくことにしました。昨年も長崎市から2人派遣してもらっています。

涙ながらに語る体験者のお話に、こどもたちの心にも動くものがあると思います。また、伝承者の方も被爆体験者と自分との関わりを踏まえた上で、体験者の状況をお話いただけているので、すごく伝わってくるものがありました。

現在、体験講話者は、当時物心ついている人では年齢が80～90歳代になっています。そのため八尾市への移動も難しくなっている中、一週間滞在してもらいその期間中に一日2校、全部で14校回っていただいています。これでも毎年、希望校数を全部回することはできていません。昨年も25校が希望してくれていました。体験者、伝承者のお二人には、本当に大変だと思いますが、直接の声を伝えに毎年八尾市にお越しいただいています。

Q. 40周年の取り組みについて教えてください

八尾市非核・平和都市宣言40周年記念事業「平和のつどい 被爆ピアノコンサート」を八尾市プリズムホールで開催しました。内容としては、広島県の爆心地から近い距離で被爆したけれども、奇跡的に焼け残ることができたピアノ、いわゆる被爆ピアノを管理している矢川光則さんの被爆ピアノにまつわるエピソードと被爆2世である自身についての講話と、八尾でピアニストとして活躍している現役大学生、山形昂輝さんによる被爆ピアノ演奏コンサートを開催しました。



平和のつどい 被爆ピアノコンサートの様子

会場定員 330 人満席となる多くの市民に参加いただき、被爆ピアノの音色を聴き、平和について考える機会にはなったかと思っています。

今回 40 周年企画でたくさんの市民に参加していただいたので、やはりこのような事業が必要と考え、来年度も市民向け啓発を企画しています。今後も改めて平和を考える機会を市民の皆さまに提供していければと考えています。

Q. 今後の宣言都市、八尾市としての役割は

平和とは、グローバルな話になりますから、なかなか一都市でできることは少ないと思っています。ただ、協議会では、平和の文化を根付かせようという動きがあります。個人が平和や非暴力を求めるからこそ、家族間、コミュニティ間、そして国家間が平和になる。そういう平和文化を感じてもらうことを大切にしていますので、小さなことですが、やはり非核平和の啓発を継続していくことを、八尾市として進めていかなければいけないと思っています。

八尾市が毎年実施している市民意識調査の中では 2022 年度、「戦争とか核兵器のない平和な社会が大切です」と回答する人が 95% になっています。もちろん、100% にすることが目標ですが、人権啓発と同様になかなか効果が分かりづらい部分ではあります。なので地道なことではありますが、啓発を続けていくことが大事なのではないかと思っています。

被爆体験講話で印象に残っている人の話があります。その人は講話の最後に子どもたちと 3 つの約束をしました。1 つは、「命を大切にしましょう。他人の命も大切にしましょう。」2 つ目が「差別をしないようにしましょう。」3 つ目が「何でも話し合いで解決しましょう」です。偏見や差別が憎しみを生み、その憎しみが暴力を生み、暴力が暴力を生み、その先が戦争になっていく。だから、今、自分たちができることは、差別をしない、腹が立つから殴るのではなく暴力で問題は解決しないことを知ろう、ということを伝えてくれていたんです。平和は大切とい

うだけでは、自分ごとにならないまま話を聞いて終わってしまうところがあるかと思います。平和を実現するには、どのような行動が求められるのか、そのことを考えていけるような啓発事業を進めていなければいけないと考えています。

そういう意味では、平和啓発と人権啓発は共通する部分が多く、自分が以前に担当していた人権啓発業務の経験が、活かしていると思っています。基本的にはいかに自分ごととして考えてもらって、それが平和のための行動に移せる。自分の考え、行動しだいで平和をつくることができると感じてもらえればよいと思っています。そのようなことを意識しながら今後も担当者としてできることを進めていきたいです。

八尾市・非核平和都市宣言

世界の恒久平和は、全人類の願いである。しかるに、近年の核軍拡競争はとどまるところを知らず、ひとたび核戦争がぼつ発すれば、人類を滅亡させる危機にあることは、世界の人々の等しく憂えるところである。世界最初の核被爆国となった我が国は、ヒロシマ・ナガサキの惨禍を絶対に繰り返してはならず、その決意と行動を世界に示さなければならない。

日本国憲法に掲げる恒久平和の原則に則り、それを市民生活の中に育み、継承させていくことが、人間尊重の精神につながり、八尾の自然と文化を守ることとなる。

したがって、八尾市は、国是である「非核三原則」が完全に実施されることを求めるとともに、あらゆる国のあらゆる核兵器を拒否し、廃絶することを全世界に訴えるものである。

以上宣言する。

1983 年 10 月 4 日 八尾市

11月10日(金) 11日(土)
開催しました

ひゅーまん フェスタ 2023

今年も無事に開催できました。金曜日があいにくの雨模様でしたが、2校の子どもたちの参加があり、人権を知るいい機会になったかと思います。ひゅーまんフェスタで暮らしの中に人権があることを改めて実感していただけたらと思います。二日間、ご来場いただきありがとうございました！



今年も用和小学校の4年生と八尾小学校の4年生が遊びにきてくれました。



4階研修室では…

のんびり遊んだね♪



恒例の
さをり織り

じんけん作品
展示会



今年初参加の
和太鼓チームの演奏



ボッチャで遊ぼう！



こどものためのプレイパーク

ヒップホップ
ダンス発表



劇団どろっぷ



次回は2024年11月15(金) 16日(土) プリズムホールで開催します。ぜひ遊びに来てください。

♪やおでまじめに遊ぶ 1 日 PLAY DAY 2023

NPO 法人 KARALIN 松田直美



子どもの権利条約 31条 こどもには遊び、休む権利があります。
おとなもこどもも遊んじゃおう！



クリエイティブリユースでは、環境問題を意識し啓発を兼ねて遊びました。

1989 年 11 月 20 日に、国連総会で子どもの権利条約が採択されました。現在ではこの条約を守ると約束した国は 196 か国になり、約束した国が最も多い条約となりました。11 月 20 日は「世界こどもの日」で、子どもの権利について考え行動するメモリアルデーにすべく、KARALIN では、特に子どもの「遊ぶ権利」をテーマに取り組もうということで、2023 年 11 月 19 日の日曜日に久宝寺緑地のあいあい広場で開催しました。とにかく楽しく夢中に遊ぶ企画が集まり、KARALIN のこれまでの活動がつながり、実を結んだ 1 日となりました。遊びや販売をブース出店の形で募集すると様々な方からお問合わせをいただいたり、出店される方が知合いに声をかけていただいたことも嬉しい反応でした。これまでの活動や主旨に賛同していただき、30 ものブースで子どもたちにいろんな遊びを提供してくださる団体が集まり、私たち自身も励まされる思いでした。

テーマに「遊びはこどものごはんです！」と掲げ、子どもが主体的に活動できる工夫をしました。子どもがお店を出せる「こどもふろしきマーケット」は、今回 2 回目でお店の数も内容もバージョンアップ！参加型のワークショップで、手作り商品に着色できるような工夫をしていたお店や、お買い上げのお客様にガチャのくじ引きがあったりと売るための工夫を子どもた

ちなりによく考えてくれていました。また、仕入れや材料費と売り上げの計算、売り上げの使い方の相談など、お家の方の協力も大きかったです。そして、今回仕組みとして導入した「こどもハローワーク」が大人気でした。本部や出店ブースから求人票を出し、来場した子どもが紹介所で仕事を選んで働き、お金（通貨らいつ）をもらって、らいつで遊ぶことができるということです。換金したらいつは 14700 らいつ。（お店の人は、子どもが使った 100 らいつは 100 円に換金できます。）みなさんの協力で 147 のお仕事が出来ました。お金がなくても遊べる仕組みとして考えていましたが、「働く」ことについて考えることのきっかけになったのも良かったです。この仕組みはまだまだ改善の余地があり、次回はさらに参加しやすい働いて遊べる仕組みにしたいと考えています。さてさて、どうなることやら？やお PLAYDAY2024 に、あなたも参加しませんか？



Instagram@ karalin2006

◇◇◇第 46 回 みんなのしあわせを築く八尾市民集会◇◇◇

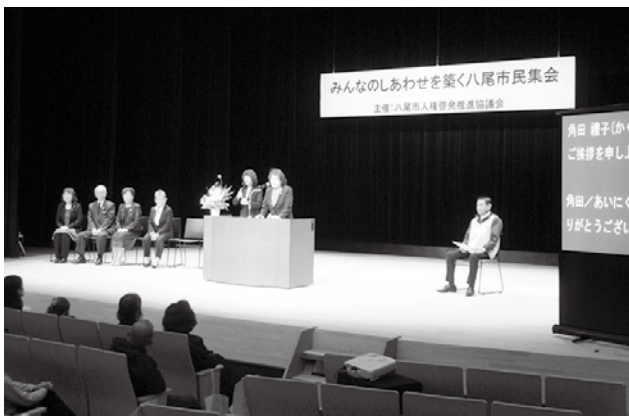
八尾市人権啓発推進協議会では、人権尊重の精神に基づき、例年実施している「人権啓発映画上映会」や、各地区福祉委員会で実施している地区人権研修など、全市民を対象にした人権啓発事業を実施しております。

今回は、参加者の方に人権について考えていただく機会にするため、「第 46 回 みんなのしあわせを築く八尾市民集会」を実施しました。

バイリンガル落語家のダイアン吉日さんにご講演いただき、参加者の方に外国人の人権について理解いただく機会となりました。

日 時：2023(令和5)年 11月 10日(金)
午後2時～4時
テーマ：外国人の人権(多文化共生について)
講演タイトル：「笑いで世界をひとつに」
～さまざまな文化や多様性を認め合う～
講 師：ダイアン吉日さん(バイリンガル落語家)
場 所：八尾市文化会館プリズムホール
地下2階 小ホール

また、当日は、大松市長をはじめスタッフが、「いじめ反対」を意思表示するピンクシャツを着用し、学校でのいじめ予防・防止に向けた啓発もあわせて実施しました。



第46回

みんなのしあわせを築く八尾市民集会

参加
無料
申込不要

講演タイトル
「笑いで
世界をひとつに」
～さまざまな文化や多様性を認め合う～
※一部 落語公演あり

きち じつ
講師 ダイアン吉日さん
(バイリンガル落語家)

イギリス出身。ロンドンでグラフィックデザイナーとして働いていたが、世界中を旅したいと決心し、バックパッカーをしながら1990年に日本にたどり着く。英語落語の発掘者、放浪者としての生活を送る。古くから伝わる落語と出会い、1998年自ら初舞台を踏み、古典落語から新作落語までさまざまな工夫をこらして演じる。「わかりやすい落語」として、若手から老練の方まで幅広い年齢層に愛されている。今までに50ヶ国以上を旅した経験があり、日本に定住した後も、文化の違いをテーマにしたトークショーやワークショップを取り入れた講演会も好評。パルンアーティスト、ラフターヨガ講師としての一面も持ち、「笑いで世界を築く」という夢と目標を国内外で日々活動中。2013年中国留學奨励賞受賞。

日時 令和5年11月10日金
14時開始(開場:13時30分)

定員 300名(当日先着順)

対象者 八尾市在住・在勤・在学の方

場所 八尾市文化会館
(プリズムホール)
地下2階小ホール

一時保育あり (申込期間 10/2～10/20)
【1歳～小学4年生対象】
1人め500円、2人め250円、3人め以降無料。

要約筆記あり
手話通訳あり

【問合せ先】(一時保育申込先)
八尾市 人権ふれあい部 人権政策課
〒681-0003 八尾市本町1-1-1
TEL:072-924-3830 FAX:072-924-0175
メール jinkenseisaku@city.yao.osaka.jp

主催 八尾市人権啓発推進協議会 後援 (公財)八尾市文化振興事業団

(参加者アンケートより)

- ・ダイアン吉日さん、とてもいい人ですね。とてもいいお話。楽しく聞けました。落語も上手でした。外国の人に日本の文化を見直すことを教えられました。思わず彼女の世界に引き込まれました。
- ・ダイアンさん元気でよかった。活動的でした。き！！ダイアンさんは世界をつなぐ人。
- ・ダイアンさんの落語、すごくおもしろかった。落語もよかったけど、後のトークショーが特によかった。
- ・笑いは世界共通、常に笑いを忘れないでいよう。
- ・「ピンクのシャツ」のお話を伺って、良かったです。外国の人から見た日本の不思議を話してくださっておもしろかったです。こども達にも会わせたいと思いました。楽しかったです。ありがとう。
- ・明るくて楽しくて良いお声でブラボー!! 楽しかった、笑った、笑ったあ～!!

SDG s イベント&ワークショップ with イトーヨーカドー

2023（令和5）年11月3日（祝日）アリオ八尾店レッドコートにて、イトーヨーカドー主催の親子で体験できるSDG s ワークショップイベントに男女共同参画センター「すみれ」（人権政策課）が出店しました。「すみれ」で実施しているワンズセルフ（職業興味・性格検査）や、おこさんも参加できるアンブレラマーカークーヤの製作体験を通じて、多くの方に男女共同参画センター「すみれ」の取組について知っていただく機会となりました。

〈当日の様子〉

すみれの出張ワンズセルフ
（職業興味・性格検査）



すみれのしおり、アンブレラマーカークーヤ製作体験

男女共同参画センター「すみれ」

思い込みや“～であるべき”にとらわれることなく自分らしく人生を創っていく力をつけるために、学んだり、人とつながったり、相談したりできる場所です。

セミナーやマンツーマンPCレッスン、おかし飲み物付の「すみれカフェ」を毎月開催しています。詳しくはすみれホームページをご覧ください。



すみれホームページ



男女共同参画センター「すみれ」

開所時間：月～金 9 時～ 17 時（土・日・祝日、年末年始を除く）

電話番号・FAX：072-923-4940

住所：〒581-0003 八尾市本町 2-4-10 社会福祉会館 2 階

フューチャリングアイディアソン ～未来を創ろう 2～

2023（令和5）年11月28日（火）「みんなで助け合う 生きるためのつながるチカラ・つなげるチカラ」と題し、大学生による意見交換会を開催しました。

困りごとを抱えながら相談窓口や支援につながらない若者に対し、どのようにアプローチしたらよいか話し合い学生の視点から若い世代に届く発信を考えてもらいました。

当日学生の方々に考えていただいたアイディアは今後の発信に役立てていきます。



当日は1～3回生の年齢の違う35名の学生に参加いただきました。

<参加者の声>

- 若者の悩みや問題、課題について知ることができたのが良かった。
- 普段、人と話して1つの物事について深く議論するという場がなかなかない中で、今回のようなグループワークができて良い経験になった。また、身近な課題に対して理解が深まった。
- 普段、孤立している方について、深く考える機会がなかったが接し方や解決策を考えることができた。
- 他学年だけでなく他の大学の学生とも交流できて、とても楽しかった。自分にない発想をもっている人がたくさんいて、発見になった。

など

やおキラ交流会

(安全・安心なまちへ～女性・子どもの防犯～)

2023（令和5）年12月3日（日）八尾警察署から講師をお招きして、特に女性が被害に遭いやすい犯罪から身を守るために、防犯ブザーの使い方、防犯対策などについて学びました。

性犯罪について、大阪府は東京都について犯罪被害が多く、強制わいせつは道路上や共同住宅内で多く発生しています。

グループワークでは、被害にあわないように相手と距離をおくことや、鞆を持つ位置を確認すること、大きい音やメッセージの出る「あんまちアプリ」をダウンロードしておくなど自助や共助の工夫について意見を出し合いました。

また、危機管理課より、八尾市の取組（共助）について説明があり、防犯カメラの設置やジョギング・ウォーキングパトロール、わんわんパトロールなどの取組が紹介されました。その場でジョギング・ウォーキングパトロールの申込をされる方もいるなど、地域の安全について主体的に考え行動するきっかけになりました。

〈当日の様子〉



人権週間街頭啓発

今年も人権週間初日に近鉄八尾駅、河内山本駅、JR 八尾駅、JR 久宝寺駅の4駅で、ポケットティッシュ等の人権啓発グッズ配布での街頭啓発を実施しました。世人やおは、例年 JR 八尾駅を担当しています。通勤・通学等で駅にむかう多くの人たちに受け取っていただきました。

〈近鉄八尾駅前での様子〉



今年も人権週間ひゅーペン缶バッジを配布しました！

八尾市立小学校1年生全員に人権週間啓発オリジナル缶バッジを配布しました。一部学校へは直接ひゅーペンが届きました。



北山本小学校



高美南小学校

白根さんと考えよう! 世界の人権46

国際NGO「CCPR センター」「ISSYO」所属 白根大輔

自由権規約委員会第139会期

— 加盟国に問われる姿勢

国際人権条約の中でも核をなす自由権規約、この規約の各加盟国による履行を監視する国連自由権規約委員会は、2023年10月9日から11月3日まで、その139会期を持ち、イラン、クウェート、韓国、トリニダード・トバゴ、アメリカ、ベネズエラの審査を行いました。イラン、韓国、ベネズエラの審査に際しても活発な市民社会参加がありましたが、特にアメリカの審査に際しては、最大規模と言って間違いのないほどの市民社会代表者がジュネーブを訪れ、アメリカ政府代表が開催したものも含め、数々の公式、非公式会合が開催され、審査に先立ち様々な情報提供、意見交換がなされました。会場も通常のパレ・ウィルソンでは収容しきれないため、国連本部のパレ・デ・ナシオンに移動しての審査となりました。逆にクウェートとトリニダード・トバゴの審査には諸々の理由から、市民社会参加は書面による情報提供も、ジュネーブを訪れてのものもとても限られたものでした。

それぞれの国の審査に関して、市民社会やその他関係者から様々な人権問題が提起されましたが、特にネガティブな面で注目を集めたのは、イランとベネズエラの審査でした。これらの国の人権状況、特に自由権の状況が深刻なものであることはもちろんでしたが、さらに物議を醸したのは、これらの国の政府代表団の中に、何らかの人権侵害に関わっていることで、EUによる制裁を受けている個人が含まれていたことで

した。イラン代表団の一人、ゾレ・エラヒアン（Zohreh Elahian）はプロテストを行う人々の拘束、拷問、殺害への加担を理由に2023年2月に、ベネズエラ代表団の一人、タレク・ウィリアム・サーブ（Tarek William Saab）は反政府運動に対する攻撃と国会からの権限剥奪に加担したとして2020年11月にEUによる制裁対象となっています。

どのような人物を政府代表団として審査に送るかはもちろん各加盟国の裁量ですが、あえて深刻な人権侵害、国際法違反に関わり、国際的な制裁の対象となっている人物を送る理由はどこにあるのでしょうか。国連人権条約には、各国自らがその遵守を目的として加盟しています。さらにその履行状況について審査を行う条約機関は、全ての加盟国による選挙によって選ばれた独立専門家から成り立つ委員会であり、しかも審査は一方的なものではなく、加盟国により提出された報告書をもとに、委員会と政府代表団間の質疑応答を通して行われます。そのような場に、今回のイランやベネズエラのような人選をする必要性があるのか、誰しも疑問に思うはずですが、それを承知であえてする姿勢は、自由権規約委員会や市民社会、さらにはその他の加盟国や国際社会、国連システム全体、そして何より被害者に対する明らかな嘲りと言ってもいい気がします。

このような人権や国連条約機関審査に対する「姿勢」は委員会と加盟国代表団との対話の中でも明らかで、イラン審査では、女性に対する暴力や人権侵害、拷問、死刑、表現の自由の弾圧、マイノリティの迫害等の問題に対して委員会が次々と質問を投げかける一方、イラン代表団は多くの場合でしっかりした返答や関連する情報の提供をあからさまに拒否するやりとりでした。ベネズエラの審査では、返答や情報提供の拒否にとどまらず、政府代表団は悪化する人権状況の原因をアメリカやEUによる制裁になすりつけながら、数々の返答の中で、むしろ自由権規約

委員会や国際調査団の独立性や公平性、専門性について一方的な批判や攻撃を繰り返し、どのように見たとしても「対話」にすらならないようなレベルでした。

委員会による質問や勧告に対し自らの行動を専ら「弁護」する加盟国は少なくありませんし、そういった意味で難しい審査はこれまで何度もありました。国連条約機関による審査という場で、最低限の自律や敬意、考慮に欠け、不適当または不謹慎な行動をとる個人の参加も政府側、市民社会側に関わらずあります。ふと、以前、拷問禁止委員会による審査で日本政府代表団長が、自らの発言に対して失笑した会場全体に対して「Shut up!」（黙れっ）と叫んだことも思い出されました。しかし、今回ベネズエラのように

に委員会や国連人権機関に対してここまでダイレクトに攻撃・避難をしたケースはまずなかったのではないかと思います。このような国はあくまで例外であるときっぱり言えればまだ良いのですが、欧米各国も含め、世界各地で、国際人権法や国際人道法を軽視するだけでなく、無視または平気で違反をする政治家やグループ、政府や国家が少なからずある、もしかしたら増えている、というのは大きな懸念です。

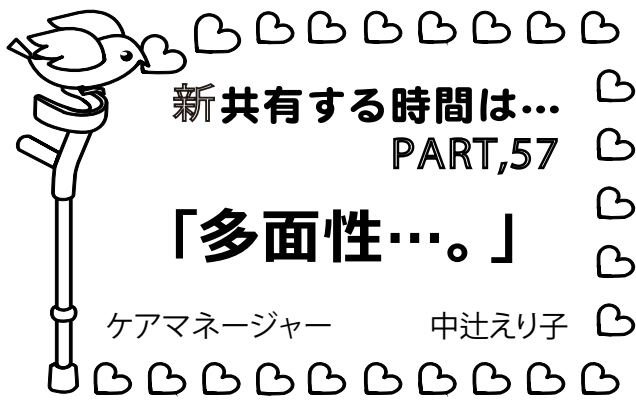
なんらかの罰則がないと遵守できないのでしょうか。悲劇がないと学べないのでしょうか。被害者は泣き寝入りするしかないのでしょうか。

本来、そういった状況を防ぐために作られたシステムであり、ルールなのではないのでしょうか。

世界人権宣言 75 周年記念フェスティバル せじ〜ん75 2023.12.8 開催しました！



ご来場いただきありがとうございました。



2023年8月6日（日）柏原市文化会館（リビエールホール）で2023（令和5）年度の柏原市平和展（原爆投下という事実～広島、長崎原爆パネル展～）で特別展示コーナーとともに映画上映があると前日に知り、友達と出かけました。全国水平社創立100周年記念として、島崎藤村作「破戒」が60年ぶりに再映画化されたものです。主人公は瀬川丑松。明治時代後期の長野県で、「穢多」と呼ばれる出自を父からの戒めの言葉「知られるな！」と、胸に秘めて成長し、師範学校を出て小学校教師となった丑松。その心の葛藤と周囲の偏見に揺れながら前に進む姿を演じていた俳優M。TVドラマでは現代の若者役や、軽やかなコマーシャルでしか見たことがなかったのですが、映画の中では「丑松」その人として生きていました。この時代背景の映画の世界にすぐに入り込んでしまいました。

9月になり、八尾市内外環状線の交差点そばにある交番の掲示ポスターに、ふわっとしたパーマ頭で、正面を向いているけれどこちらを見ているわけではない表情の若い男性の顔が見えました。気になるけれど、俳優でミュージシャンでもあるSに似ていると思うくらいで、自転車で通り過ぎていました。大阪市内の映画館で見た映画の予告編にこのパーマ頭のSが出てきました。「ミステリと言う勿れ」（9/15より上映）でした。そのあと、交番の掲示版のポスターを見ると、映画のタイトル「ミステリと言う勿れ」を利用して、横には「たかが交通違反と侮ること勿れ・軽い気持ちが事故を生む！」とありました。色々なジャンルで活躍している若

手俳優ですが、その存在感に引き込まれました。

その頃、地域の掲示板の多くに映画案内のポスターが貼られるようになりました。衝撃的なタイトルは、「ひとくず」少女を地獄から救ったのは人間のくずだったー。八尾市から児童虐待ゼロをめざす運動実行委員会主催で11月12日（日）八尾市文化会館（プリズムホール）大ホールでの無料上映と監督や女優さんの舞台挨拶、児童虐待防止活動の講演も（私達の活動している「八尾の祭り」を楽しむわくわく実行委員会）の仲間のKさん（元八尾市職員）も実行委員として関わり、当日のMCもすると案内メールが届いていました）。映画では、虐待をされた少女を救うのが、「人のクズ」とも思われる犯罪を重ねてきた男。自らも幼い頃に虐待を受けて来た過去があり、力づくで少女の母親に親となるよう強要し、少女を虐待するその愛人を殺してしまう。虐待や暴力シーンからは、結末はどうなってしまうのかと思ってしまうほどのリアルさで描かれていきました。そして本物の「家族」へと近づいていく…。大ホールは1、2階も、あと数席の空席しかない満席での上映で、Kさんの司会の楽しさと、主人公を演じ、脚本家でもある監督上西雄大氏の映画の中では見られない穏やかな笑顔のあいさつの中から、改めて児童虐待の実態や問題の深さを考えさせられました。上西雄大氏作・演出・出演の演劇「ヌーのコインロッカーは使用禁止」ヌー 彼女は天使のようなコインロッカーベイビー（赤ん坊の頃にコインロッカー ぬ 5515 に捨てられ、その後障害者施設で暮らす通称ヌーが主人公）にKさんが弁護士役や酔っ払い役で出演すると聞き、11月26日には、近鉄アート館では4時間の舞台演劇を間近で鑑賞しました。

今も交差点の交番の掲示版には「ミステリと言う勿れ」を紹介しながら、交通違反取締のポスターの中でふわふわパーマ頭のSの顔が見えます。次はどのような姿に出会えるのでしょうか。



Xで、小学生が「ネットで知り合った人に家族にナイショで会いに行く」って内緒話をしてくれた・・・というのが流れてきました。その人は、とりあえず学校に連絡すると、学校が即対応してくれたようでした。

この件は、おそらく大丈夫だと思いますが、年間2,000人近くの子どもが、SNSに起因した性犯罪に巻き込まれているようです。

家庭や学校で知らない人、怪しい人に気をつけるように言われているとしても、困っていることをちゃんと聴いてくれて、励ましたりしてくれたら「この人は大丈夫」と信頼してしまうかもしれません。もし会っても、行きたいところに連れて行ってきて、話を聴いてくれて、勉強も教えてくれることが何度かあったら、信頼感はもっと増していくでしょう。性的グルーミング（性的懐柔）は、こんな風に巧妙に行われていきます。

『子どもへの性加害 性的グルーミングとは何か』は、性的グルーミングによって加害が露見しない透明人間になっていくプロセスがまず書かれています。そして、加害者の実態と社会背景。加害者が再犯を防ぐための治療プログラムも紹介されています。被害者支援の弁護士との対談、加害経験者との対談も興味深いものでした。

行為依存として子どもへの性加害をとらえている本に私は初めて出会いました。加害者にも幸せになる権利があるという言葉にも揺らされました。

児童ポルノと性暴力の因果関係、性的指向と性的嗜好の違い、包括的性教育の必要性、グッドライフモデル、コーピングスキル・・・気になるワードありましたか？気になった方は、読んでみてください。子育て中の方は子どもを守るために一読を。

ただし、性犯罪、性加害の表現が含まれているので、その点にご留意くださいね。

『子どもへの性加害
性的グルーミングとは何か』
齊藤章佳 著
幻冬舎新書



じゃいちえ日記

VOL76

体調の変化

以前から体の不調が少しずつ変わってきているのか、生理前になると頭が痛かったりしている。又判断が鈍ったりなど、いろいろな面で支障が出てきている。感情が不安定になったり、急に熱くなったり・寒くなったりと出現している。

母親に訪ねたことがあるけれど、これといった回答がなかった。しかし、母と話をしていた時、「自律神経の乱れ」ではと言われたことがあるがはっきりと「理解」出来ていない。

何故だか分からないけれど、「不安」になったり、「決断力」がなかったり等などが出現している。通る道なのかな？と漠然と思ったり、個人によって差があるから。

身近にかかわっている方に聞いてみると、「そろそろ更年期？？？」かとも思い当たる節が多々ある。原因が分かれば、精神面や身体面で「楽」になるのではと感じ始めている。

あれもこれとも思っているうちに、時間が経ってしてしまう。最終的には最後までするのだけれど、いつも期限が守れていない。優先順位をつけてしているけれど、体も思い通りにはいかない。

気を引き締めて、なるべく言われている間に「物事」を終われるようにしたい今日この頃。

いままにおしゃべり シネマ vol.55

E: 3人の女性が海を背にして映る映画のポスターは美しく、でも、終わるとすぐに言葉が出てこなかった。フィクションだけど「彼女たち」は日本で生きてる。どこかでずれ違ってるかもしれない人たちかと思うといたたまれない。

O: 外国人技能実習生の過酷な労働環境や失踪問題が報道されるようになって、国は何してるん?!と思ったよ。「人材育成による国際貢献」「途上国への技術移転」とは名ばかりの人権侵害だからね。なんで彼女たちにこんなことが起こるんだろう。許されないことだよ。

E: 監督は実際に実習生の女性からインターネットでSOSを受け取ったけれど、本人は失踪してしまった。そこから丁寧に取材して、出演者の息遣いや空気感はまるでドキュメンタリーのよう。2022年度の失踪者は9000人を超えてるといし、30年前にできた実習生制度の見直しは必然ですね。

O: 3人が脱走するシーンからの始まりは不安でしかない。こんな思いまでして逃げて、身分証明もできず健康保険も使えない状況。なのに国の親に送金しなければいけないとは。

E: 労働力として都合よく入国させて3年間は転職不可。入国者への規制は厳しく受け入れ側の管理を怠って失踪すると不法滞在、こんなに無責任な国だったとは情けない。日本は外国人の力を借りないともう経済が回らない状態だということに、いいとこ取りは許されないでしょう。

O: そうそう、安価な労働力の確保手段としてのこの制度は見直されつつあるけど、移民受け入れの途上国。本当の意味で外国人との共生、人



海辺の彼女たち
(2021年 日本・ベトナム合作)
監督 / 藤元明緒
主演 / ホアン・フォン
フィン・トゥエ・アン
クイン・ニュー

権擁護を考える時になってる。この映画で改めて思うのは、彼女たちに自由はあるのかということ。選んで日本に来たとしてもその先は… 悪質なブローカー頼りで追い詰められている。

E: 円安が進んで日本は稼げる国でなくなってるし、ますます魅力のない国になってしまうのも悲しい。彼女たちも最初は日本で働くのを楽しみに来たんじゃないかな。話が違うからと簡単に帰国できないほどの借金もして。

O: そりゃそうでしょ。こんなに怖い思いして逃げ出して、次の職場も過酷でビクビクしながら生きてる。ポスターの隅にある「生きていく。この世界で」が彼女たちの見えない鎖のように思えた。彼女たちが幸せに生きるために必要なことはなんだろう。

E: 国が制度を整えることはもちろん、日常的な国際感覚や人権感覚を大切にしたい。八尾はもともとたくさんの外国人が暮らす街。永住や定住の人が圧倒的に多い中、調べてみると技能実習生も500人弱。共にいきる街、人権擁護のモデルのような街であってほしいですね。

勝手にきゃらふる

11

< 私の最近の思想断片 >

池谷麻幸

私は年老いた。もはや私の時代ではない。
全ての苦しみは死によって無くなると、私は思っている。

人権侵害には個人的レベルなものもある。むしろ個人的レベルな人権侵害の集積が戦争につながる。

新しき道と新生きゃらふる、新生ちのくらぶというもの。

これから精神疾患が完治する日が来るのだろうか？もしそうなら、私が今まで提唱していた精神保健福祉社会思想など無用である。異常正常という問題は哲学的トピックの1つとしてはあるが、現実には今の福祉制度を思想的に全否定するのは、賢明ではない。

私が今まで正しいと思っていたことが、必ずしも正しくはなかった。今はそういう時代である。

例えば、まず金が決である。

今の精神障害者福祉制度には何が欠けているのか？
今の精神障害者福祉制度は、精神障害に特有の多様性に、制度として充分に対応していない。
最近の報道を見ても、やはり悪徳精神科病院は今でもひどい病院らしい。少しも改善されていない。

我々働いていない障害者達が自己主張することは、働いている健常者からすれば、不愉快で眉を^{ひそ}めさせるものなのか？

働かない人は周りから馬鹿にされても仕方ないという世間の風潮がある。これは正さなければならない。

自分が不幸なのは社会のせいだ、という考えは大きな誤りである。

精神科医の中には、精神障害者を病院で診察する時、護身のために銃を持つことを許可してほしいという人がいる。私は自身精神障害者であるが。この人の気持ちは分かる。

精神保健福祉に必要な不可欠なのは、人間とは何かという哲学である。

人間とは複合体である。機械や物ではないから、単純な制度の枠組みに嵌め込もうとしても、その幸せを実現できない。

つまり、生きる喜びはない。

♪ 歌詞紹介 ♪



オリーブ

歌：かりゆし 58 作詞・作曲：前川真悟

この広い空の下では今も どこかで醜い争い続く
名前も知らない人同士が
ためらうこともなく銃口向け合う
ブラウン管に映る情景は 果てしなく灰色に煙る街
奪い合うことで生まれるものなど
何一つありはしないのに

君の青い目 彼の黒い肌 僕の黄色いこの顔に
何の違いもないということが どうして分からないの
犯してきた罪を正当化するためだけに 掲げる正義なら
「そんなものは要らない」と
この星のリーダーに手紙を書こう

あの子の自慢はいつも親父
立派な軍服に映えるバッジ
撃ち殺してきた 敵の数を誇るように
冷たくギラギラ光る

どちらの意見が正しいなんて
決めてきたのはいつも強いヤツ
思想や価値観に優劣をつけることなど
出来やしないのに

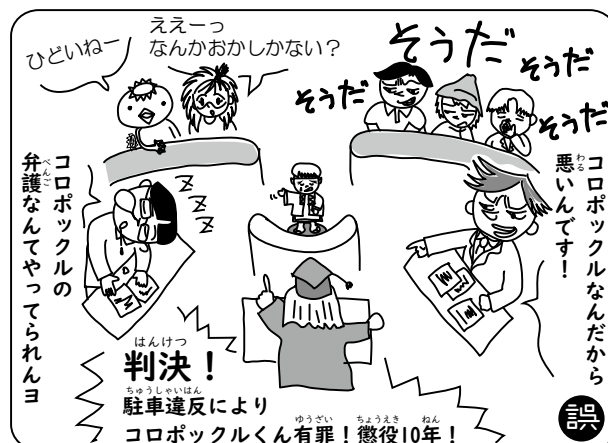
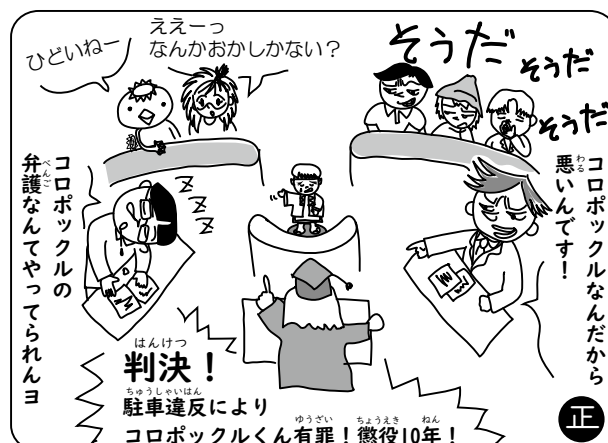
君の青い目 彼の黒い肌 僕の黄色いこの顔に
何の違いもないということが どうして分からないの
力づくで手にした平和など
涙を吞んで得た安らぎなど
「そんなものは要らない」と
この星のリーダーに手紙を書こう

例えば昨日アナタの胸に
冷たい言葉 投げつけた人達を
今ここで 許してあげることから 始めてみませんか



世人やお的世界人権宣言第10条。「公平な裁判を受けることができます」上の絵が正解。下の絵は、まちがいが5つあります。探して事務局まで送ってくださいネ。

正解者には、世界人権宣言八尾市実行委員会オリジナル缶バッチプレゼント！➡



すべての人は、悪い力が届かないところで、嘘や隠し事のないやり方で、みんなの前で、正しい裁判をうけることができます。



■世界人権宣言八尾市実行委員会（世人やお）は、人権尊重のまちづくり、ネットワークづくり、市民活動支援を目的に活動しています。活動に参加してくださる、また支援してくださる会員を募集しています。詳しくは右記へご連絡下さい。

○団体会員：年額1口 5000円
○個人会員：年額 2000円

〒581-0004 八尾市東本町3-9-19-312 八尾市人権協会
世界人権宣言八尾市実行委員会 TEL072-924-9853
Eメール oyaoya@oyaoya.org